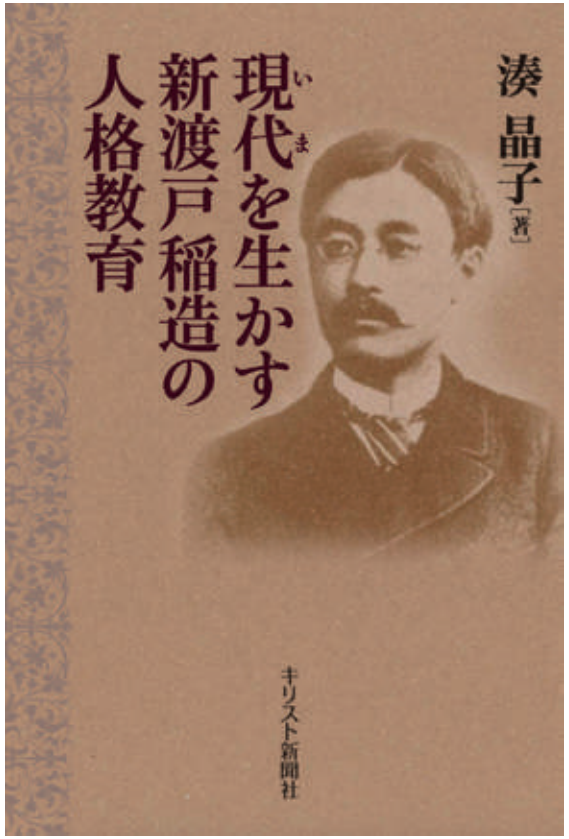
湊　晶子◎著

現代（いま）を生かす新渡戸稲造の人格教育

東京女子大学、広島女学院大学でキリスト教主義学校の女子教育に尽力し、90歳を迎えた著者渾身の１冊。



「キリスト教学校に属する者として、またキリスト者として『人格とは何かについて』明確な意味を世に示す責任がある。国際社会において日本が責任を果たすためには、座標軸にしっかりと位置づけ、ぶれない個を確立する必要がある。世界で活躍できる若者を生み出すために、この小冊子が用いられれば幸いである」（「序文」より）

目　次

第1章　生い立ちと年表に見る新渡戸稲造の生涯
第2章　現代（いま）を生かす新渡戸稲造の「人格と公共」の精神
第3章　キリスト教に立脚した新渡戸稲造の女子人格教育
第4章　東京女子大学創立90周年と100周年記念講演
第5章　激動の時代におけるキリスト教学校の存在意義――戦前・戦中・戦後を5代目キリスト者として生きて

湊　晶子（みなと・あきこ）
1932年生まれ。東京女子大学文学部社会科学科卒業。フルブライト奨学生としてホイートン大学院（神学修士・2008年名誉博士）。ＮＨＫ教育テレビ英語会話中級講師、ハーバード大学客員研究員、東京基督教大学及び東京女子大学教授を経て、東京女子大学学長（2002年～2010年）、広島女学院院長・学長（2014年～2021年）を歴任。国際NGOワールド・ビジョン・ジャパン理事、国際開発救援財団理事、国連ユニタール協会理事を務める。「瑞宝中綬章」受章、ペスタロッチー教育賞、中国文化賞受賞。著書に『女性を生きる』『初代教会と現代』など。

四六判・並製・120頁、定価1,320円（本体1,200円＋税）　ISBN978-4-87395-821-7 C0037 ¥1200E（日キ販）